

(4) 石油精製業

17 / 16 18 / 17

伸び率10%以上 ● 伸び率 0 ~ 10%

: 天気図マーク;

伸び率 0 ~ 10%

伸び率 10%以下

1. 企業経営動向

(1) 需要

平成17年度の需要は、ガソリン自動車保有台数の伸びやエチレン、BTXの国内・アジア需要の好調の影響等で、ガソリン61,624千KL(前年度比+0.3%)、ナフサ49,513千KL(同+1.1%)に、また、電力用の受入量が増加したこと等により、重油55,873千KL(同+0.4%)、年度下期の厳冬の影響により暖房用需要の増加により灯油29,366千KL(同+0.5%)の増加及び軽油は37,104千KL(同+2.9%)と見込まれる。燃料油全体では238,465千KLと同+0.5%と増加の見込み。

平成18年度の需要は、ガソリン61,773千KL(前年度比+0.2%)は増加が見込まれるものの、灯油28,091千KL(同+4.3%)、ナフサ48,886千KL(同+1.3%)、軽油36,259千KL(同+2.3%)、重油51,503千KL(同+7.8%)は減少が見込まれることから、燃料油全体では231,454千KL(同+2.9%)と減少の見通し。

(2) 設備稼働(平成17年度)

常圧蒸留設備(許可ベース能力): 477万B/D

同 設備稼働率: 87.1%(前年度比: 3.2ポイント増)

(3) 企業収益

精製・元売大手6社の経営動向(連結ベース)(単位: 億円、%)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度(予想)
売上高	165,266	202,670	212,650
営業利益	6,155	7,494	-
経常利益	6,338	8,115	5,330
純利益	2,532	4,240	2,680
経常利益率	3.8	4.0	2.5

平成17年度決算において、売上高は前年度比+22.6%の増加となった。

営業利益・経常利益とも、これまでの経営合理化によるコスト削減効果や原油高騰に伴う在庫評価の影響等により増益となった。

平成18年度業績予想については、売上高は前年度比+4.9%増の約21.2兆円、経常利益は同+34.3%減の5,330億円の見通し。

(4) 財務

平成17年度の精製・元売大手6社(連結ベース)の有利子負債残高は、原油高騰による運転資本の増加等に伴い、前年度に比し+3,023億円増加し36,794億円となった。

平成18年度においても、財務体質の強化に取り組む方向。

2．設備投資動向（グラフ1参照）

(1)これまでの設備投資の推移

石油産業の設備投資は、昭和62年度から順次実施されてきた精製設備許可の弾力化、SS建設等の規制緩和等に加え、内需拡大とも相俟って昭和63年度3,000億円台から平成3年度には6,000億円台へと推移してきた。

しかし、平成4年度の6,800億円台をピークとして、以降は景気の低迷を受け、平成12年度には、1,000億円を下回る水準まで減少してきた。

(2)平成17年度設備投資見込みは、1,263億円で、前年度比 177億円（12.3%）の減少となっている。

(3)平成18年度の設備投資計画は、2,243億円で、前年度比 + 980億円（+ 77.6%）を見込んでいる。

主な要因としては、製油所全体の高度化、効率化投資等の計画。

3．長期資金調達・運用動向

設備投資所要資金については、ほとんどの企業が減価償却による内部資金の範囲内で手当するよう計画されている。

（グラフ1：設備投資の前年度比の推移）

